



八幡神社しめ縄づくり



高齢者同士の交流

瀬田石自治会は、鹿角市の東側に位置し、毛馬内富士とも呼ばれる茂谷山のふもとにある自治会です。



瀬田石自治会 会長
佐藤 一彦さん
Kazuhiko Sato



瀬田石自治会
74 世帯 177 人

生活環境課
コミュニティ推進班
☎ 30-0202

自治会への女性の参加を目指して

当自治会では、自治会内の八幡神社のしめ縄づくりや、「わいわいランチ」を活用した高齢者同士の交流会を通して、地域のつながりを深めています。

また、組織として女性にも役員になってもらい、さまざまな意見を出してほしいと考えています。しかし、役員は仕事が多いというイメージがあるようで、若者や女性の担い手は多くありません。当自治会の役員は、現在選挙で選出していますが、役員を担う能力のある人であれば、性別や年齢に関係なく、役員になって活躍してほしいと思っています。

そのため、まずは自治会内の意識改革と役員の業務改革が必要になると考え、知識や経験、技術を有している定年後の方々に自治会業務を依頼することで、役員の負担を減らすことにも努め、女性役員の起用に自治会全体で取り組みたいと思います。

産業活力課 観光交流班 ☎ 30-0248

祖父の遺産



志賀 貴光 弁護士
Takamitsu Shiga

いろいろなあって父方の祖父とは会ったことがありません。商才があった人のようなので、祖父の遺産に期待したこともありましたが、その手の連絡はまだ来ていません。

遺産と聞くと、何かをもらえるイメージが強いですが、「負の遺産（借金）」をもらうこともあります。例えば、私の父方の祖父が商売で失敗して借金を残し、父がこれを相続して生活苦となり、私は学費を払って、もらえず弁護士になれなかった、というストーリーもありました。

でも、祖父の借金で孫まで苦労するというのは理不尽な話です。そこで民法は「相続放棄」という制度を用意しています。前の例で言えば、うちの父は、祖父の死亡を知ってから3カ月以内に「相続を放棄する」と裁判所に申し出ることで、祖父の借金を一切支払わないという選択もできるのです。

まず、相続放棄は、「裁判所に対して」しなければ効果がありません。父が、親族との話合いの席で、「俺は放棄する」と言ってもダメです。

父が祖父の「借金だけを放棄して」預貯金や家は相続するというのもできません。相続放棄は相続財産すべてを放棄するものだからです。

父と祖父が音信不通だった場合、父が祖父の死を「知ってから」3カ月以内なら相続放棄できます。必ずしも死亡日が基準ではありません。父が、祖父の死後に、祖父の預金を使ったり、逆に祖父の借金を返したりすると、相続放棄ができなくなります。これらの行為は「放棄」とは真逆の性質の行為だからです。

最後に。お盆に家族が集まったら、少しかだけ相続の話をしてみてください。お金の話を切り出すのは難しいですが、死者の口から遺産の身を聞き出すことは更に難しいからです。

明します。

法テラス鹿角法律事務所
所在地
花輪字下花輪 50 番地
福祉保健センター内（2F）
相談受付時間
9 時～17 時 30 分
※要予約

8月7日に、十和田湖から八幡平大沼までの区間を舞台に開催される十和田八幡平駅伝競走全国大会。「十八駅伝」の愛称でも知られ、毎年全国各地から精鋭チームが集まり熱戦を繰り広げます。

十八駅伝のはじまりは、日本マラソンの父と呼ばれる金栗四三氏が「日本人選手が国際的なマラソンレースで勝利するためには、厳しい真夏の時期にトレーニングを行い、体力をつけることが必要である」と唱えたことをきっかけに、昭和23年に開催された「北部七県十和田湖、八幡平観光コース駅伝競走大会」です。当初は十和田湖休屋から八幡平蒸の湯までの往復13.4・8キロメートルを二日間かけて走る過酷なもので、コースも今とは異なり、砂利道や未整備の山道など、険しく、伴走も自動車ではなく自転車で行っていたそうです。第4回大会ま

では、都道府県や高校の対抗戦でしたが、第5回大会から現在の名称になり、実業団や大学生チームも参加する形になりました。

現在は、十和田湖休屋から八幡平大沼までの全長71・4キロメートルを、1チーム5人のランナーが炎天下でたすきをつなぎながら激走します。標高差が828メートルと起伏が激しい非常に過酷なコースであり、選手にはコース攻略のための高い技術力と精神力が求められます。

選手以外にも、チームをもてなす宿泊施設や、沿道で声援を送る多くの方々、中継所で走り切った選手たちを迎える婦人会の方々など、地域一体となって大会を作り上げてきました。今年は、実に3年ぶりの開催ですので、沿道での皆さんの熱い声援で大会を盛り上げましょう。

地域の良さを再認識することで、地域を誇り、自ら発信できるきっかけになるよう、鹿角の魅力を毎月お届けします。今回は駅伝大会について紹介します。

地域が盛り上げ75年 十八駅伝

目指せ！鹿角ガイド

魅力ある地元企業を紹介 グッジョブ鹿角

株式会社安保自動車

会社概要

昭和27年に町の整備工場として創業し、皆さんに支えられ、70年になりました。自動車整備や販売、保険業務の他、24時間ロードサービスも行っています。そのため、緊迫した現場に立ち会うこともあります。無事に作業を終えた後のお客さまからの「助かりました」の一言で、疲れが吹き飛び、嬉しい気持ちになります。

「くるま」を通じてお客さまからの信頼に応えるべく、ベテラン・中堅・若手スタッフが力を合わせて対応しています。

若手社員の会社自慢



フロント・検査員
金澤 稔明さん
豊富な知識と技術を個性的なベテランの先輩たちから、非常に面白く学べます。



所在地：花輪字下町 58-2
設立：昭和 52 年
代表取締役：加藤 航



代表から

車好きはもちろんですが、何より面白いことが好きなスタッフが揃っています。社員懇親会の他、レクリエーションとリフレッシュ活動を兼ねた社員全員でのパークゴルフ大会などを開催しています。

また、地域行事に参加することで、その人脈を仕事に活かし、これから新しい「安保自動車」を創り上げていきたいです。



代表取締役
加藤 航さん